

# 標準施工要領書

速硬カチオンコテ

ヤブ原産業株式会社

〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷5-4-6

TEL 048(297)4111 FAX 048(290)1198

## 1. 特徴

- ・材 質 カチオン性アクリルエマルジョン入り速硬型無機系下地調整材
- ・施工方法 コテ塗り
- ・用 途 防水または、貼物仕上げの下地調整  
速硬型仕上げ材の下地調整  
短時間で解放する場合の床面改修 等々
- ・適用下地 コンクリート、モルタル、エポキシ系塗床材、アクリル系防塵床材、磁器タイル、Pタイル接着材（アクリル系、エポキシ系）、テラゾー等々

## 2. 工程

工 程	材 料 ・ 調 合	施 工 器 具	使 用 量	塗 回 数	間 隔 時 間
主材塗り	速硬カチオンコテ 主 材：13.5kg 硬化液：3.6～4.5kg	コ テ	2～4kg/m <sup>2</sup> (1～2 mm厚)	1	3～4 時間 (気温 23℃)

※上記の数値は全て標準のものです。施工下地、温度等環境条件により多少のずれが生じることがあります。

※気温 15℃～40℃の場合は一般用を、3℃～15℃の場合には冬用を使用してください。

## 3. 工 法

### 3-1 下地処理

- 1) 下地表面の塵埃等は、ブラッシングまたは水洗い等で除去してください。
- 2) 脆弱な無機質下地の場合は、浸透プライマー又はガッチリ浸透プライマーWであらかじめ補強しておいてください。
- 3) 補修の際は、下地が躯体に対して十分な接着力があるか確認してください。  
十分な接着力のない場合はケレンしてください。
- 4) 下地に撥水剤が塗布してある場合は、接着できないものもあります。あらかじめテストを行い、確認してください。
- 5) ポリエステル、FRP、アルミニウム、ステンレス、軟質塩ビ、油面には接着できません。

### 3-2 下地管理

- 1) コンクリート打設後は、2週間以上養生してから施工してください。
- 2) モルタル打設後は、1週間以上養生してから施工してください。
- 3) ALC等吸水の激しい下地への施工に際しては、プライマー処理を行ってください。

### 3-3 材料の混ぜ合わせ

- 1) 練りませ容器に、まず硬化液のおよそ 80%を入れ、主材パウダーを徐々に加えながらハンドミキサー等でペースト状に練り上げます。ここで残りの硬化液を加えて、施工に適した粘度に調整します。水は絶対に混入しないでください。
- 2) 一度に混ぜ合わせる量は、可使時間以内に使いきる量とし、一度堅くなった材料は使用しないでください。接着不良の原因となります。

### 3-4 主材塗り

- 1) 施工はコテ塗りで行います。
- 2) 凹部は堅練りした材料で処理し指触硬化した後、全体を 1~2 mm厚/回となるように塗ってください。塗重ねる場合は、3 時間以上経過した後としてください。
- 3) 部分補修すると、その部分の吸込み性が異なり、仕上材の色ムラの原因となります。従って、均一な仕上げの為には、全面処理を必要とします。

4)

## 4. 注意事項

- 1) 可使時間 (40~60 分) を過ぎると急激に硬化します。練り戻しはできませんので、練り混ぜ量には注意してください。
- 2) 強風時での施工及び施工後、12 時間以内に降雨のおそれがある場合は、施工を避けてください。また、3℃以下での施工は硬化が十分に果せませんので避けてください。
- 3) 下地が多少湿っていても施工できますが、濡れている場合は拭き取ってから施工してください。
- 4) 速硬カチオンコテの上にセメントモルタルを施工する場合は、ガッチリ浸透プライマーW を塗布するかポリマーセメントモルタルとして施工してください。
- 5) 主材パウダーは水硬性ですので、水や湿気には十分注意して保管ください。
- 6) 硬化液は直射日光下、0℃以下での保管は避けてください。
- 7) セットされた材料以外のものは混入しないでください。
- 8) 材料の取扱いについては、製品に記載された注意事項をよく読んでからご使用ください。その他詳細な内容が必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

## 5. 梱包形態

	内 容 量 (kg)	形 態	標準施工面積 (m <sup>2</sup> )
18kg セット	パウダー : 13.5 硬化液 : 4.5	ペール缶	9 (t = 1 mm)